

眺望よし、歴史・遺産あり。 歩いて楽しめる街・小樽



小川 浩一郎 (おがわ こういちろう)
 (株)ジオ (THE-O) 代表取締役

1980年札幌市生まれ。2001年エコ・ネットワーク代表代行、13年北海道科学大学客員准教授。札幌市南区常盤で育つ。『フットパス』をキーワードに市内、道内、国内で普及活動、ウォークイベントを実施し、ワールドウォーカーとして世界の「フットパス」を歩いている。「歩く」ことを通じて自然あふれる都市・札幌を観光客へ伝えるべく奮闘中。著書に「北海道フットパスガイド①」「北海道フットパスガイド②」。

歴史や遺産を感じられるフットパス

田園地帯はフットパスの王道ですが、もう一方で歴史を感じさせる建築物や遺産のような古くからあるものを感じながら歩くのもフットパスの醍醐味です。小樽はさらに海と山の眺望を楽しみながら歩けるフットパスのよく似合う街です。

小樽市は言わずと知れた日本やアジアでも人気の観光地のひとつです。小樽運河や周辺の石造りの建築物が港町の情緒を醸し出し、そこで栄えた文化や食なども魅力のひとつになっていて、観光客は1年中絶えることはありません。そんな小樽で本格的なフットパス活動が始まりました。

現在、6月末の「第29回全道フットパスの集いin小樽」へ向けて、正式ルートの小樽のフットパス活動団体が調整中ですが、私たちは独自に過去、幾度も小樽を歩くイベントを行ってきました。その中でフットパスとして大きな可能性を秘めているものをいくつかご紹介したいと思います。

人気ポイントが凝縮されたルート

JRの小樽駅、南小樽駅、小樽築港駅を起終点としたアーバン（都市部の）フットパスをまずご紹介します。小樽の市街地は古い建築物が数多く残り、小樽運河や旧手宮線、寿司屋通りなどの情緒あふれる通りがいくつもあります。そこに水天宮や田中酒造などのポイントも加えられる歴史・文化的なフットパスとしての魅力を持っています。そうかと思えば山側に歩を進めると、船見坂や地獄坂などブラタモリに出てきそうな坂道から、天狗山や旭展望台方面の自然を楽しめる遊歩道も網の目のように張り巡らされています。まさにフットパスの人気ポイントが凝縮されたルートなのです。その上、JRやバスなどの公共交通機関も容易に利用できるのも、アクセスがしやすい上にトイレや飲食店にも困りません。



旧手宮線沿いも立派なフットパスになり得る





旭展望台や天狗山からの眺望は素晴らしく、時間が合えばフェリーなどの大型客船が、汽笛を鳴らしながら出港していく瞬間に、立ち会うことができます。天気が良ければさらに暑寒別方面の山々を望むことができますでしょう。小樽運河をはじめ、旧北海道拓殖銀行や旧安田銀行、旧三井物産などの歴史遺産を感じながら小樽の名物を食べられる飲食店に立ち寄るのもいいでしょう。まさにアーバン・フットパスの醍醐味が詰められています。

歴史を感じながらのロング・フットパス

小樽の可能性を秘めている点は、隣接する市町村へのつながりを持てることです。札幌から小樽、または小樽から余市や赤井川村へのロング（長距離）・フットパスへとつながるルートが多々あります。もちろん小樽市内をぐるりと囲む形でいいでしょう。

以前エコ・ネットワークで実施したロング・フットパスイベント「札幌～小樽間の旧軍事道路を歩く」では札幌市手稲区から5日間かけてJR小樽駅までを歩きました。手稲区から銭函、張碓、朝里そして小樽へ至るのですが、張碓～朝里間には日露戦争時代にロシア軍艦からの砲撃を避けるための山道が切り開かれました。また、旧逓信省の装荷線輪を収納する「謎の建築物」と呼ばれる建物が残っていたりと、当時の歴史をしのばせてくれます。ほとんどが林内ですが、それ故、植物や野鳥などを楽しみながら歩けるのも嬉しいポイントです。そして時折姿を見せてくれる石狩湾の景観がとても素晴らしく、思わず足を止めてしまうほどです。ただし、工事や土砂崩れの影響で現在は通り抜けることは出来ないそうです。このように札幌と小樽の間で歴史を感じながらロング・フットパスを楽しめるのです。健脚者であれば2日程で歩き終わられる行程でしょう。

小樽から赤井川村までは小樽峠と呼ばれています。



札幌とつながるロングパスの可能性も秘めている

この道は赤井川村に入植した人々が、小樽への買い出しや収穫物の運搬などに使っていた生活路でした。まさに元祖小樽版フットパスです。昭和初期になると松倉鉦山から鉦石を採掘していた際に使用されました。このルートは小樽のフットパス団体がイベント等で利用している道で自然散策も楽しめます。

そして小樽から余市方面へ。蘭島から余市までであれば、すぐに超えることができます。この周辺には貝塚や環状列石など数多くの古代の遺跡が点在していて、それらを楽しみながら余市まで歩けます。ただ小樽の市街地方向から蘭島までは、道路工事の影響などで古くからあった林道などが寸断または完全に消失しており、道道や国道沿いなど歩いていてもあまり面白くないルートしか残っていません。早さを求めるためにスローな道が無くなってしまふのは悲しいことです。この周辺は「ニセコ積丹小樽海岸国定公園」にも指定されており、海岸景観が素晴らしい場所でもあるので、これらの景観を活かせるルートを現在も探索中です。

全道フットパスの集い

小樽のフットパス活動団体が主体となり、今年6月22日（土）、23日（日）に全道フットパスの集いを開催します。今までご紹介したルートの他にも地元ならではのルートなども組み込まれるかもしれません。今までの観光では運河や周辺の建築物、飲食店といった具合に市街地の狭い範囲に限定されていました。フットパスをツールにすることで銭函から蘭島、さらには余市まで幅広い地域を体感することが可能になるでしょう。

全道フットパスの集いの詳細については「NPO 法人 自然教育促進会 (TEL: 0134-51-5666)」かエコ・ネットワーク (TEL: 011-737-7841) までお問合せください。



ルート上にある旧逓信局の遺産